

日本剣道形 太刀の形解説 六本目

項目	六本目
動作の解説	<p>① 打太刀は中段、仕太刀は下段で、互いに右足から進み、間合に接したとき、仕太刀は機を見て下段から打太刀の両拳の中心を攻める氣勢で、中段に上げ始めるので、同時に打太刀も、これに応ずる心持ちでやや剣先を下げて、仕太刀の刀と(1)合おうとする瞬間、右足を(2)踏み出す。このとき、(3)右足をひいて中段に構える。</p> <p>注(1)仕太刀の氣勢を押さえることができないので上段に構える。</p> <p>② 仕太刀はすかさず中段のまま大きく右足から(左足もともなって)一步(1)進む。打太刀は、(2)直ちに左足をひいて中段となり、機を見て仕太刀の(3)右小手を打つ。</p> <p>注(1)進むとは攻め進むことで、進んだとき剣先を左拳につける。</p> <p>注(2)打太刀は攻められるので、ただちに中段になる。</p> <p>注(3)小技の小手打ちである。</p> <p>③ 仕太刀はその刀を、左足をひらくと同時に、小さく半円を描く心持ちで、右鑓で(1)すり上げ、右足を踏み出し、打太刀の右小手を打つ。</p> <p>注(1)すり上げ小手が払い小手にならないように注意する。</p> <p>④ 打太刀は(1)剣先を下げて、左足から左斜め後ろに大きくひくので、仕太刀は左足を踏み出しながら、諸手左上段に振りかぶり残心を示す。</p> <p>注(1)このときの刃先は右斜め下に向く。</p> <p>⑤ 打太刀、仕太刀ともに右足から相中段になりながら、刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先をさげて元の位置にかえる。</p>
指導上の留意点	<p>1 相中段となり、打太刀は小技で正しく右小手を打たせる。</p> <p>2 仕太刀も小技で、鑓ですり上げさせる。</p>
審査上の着眼点	<p>打 仕太刀の下段から中段への変化に応ずる所作は適切であるか。</p> <p>打 諸手左上段から中段となり、機を見て小技で仕太刀の右小手を正しく打っているか。</p> <p>打 右小手を打たれた後、左斜め後ろに大きくひいているか。</p> <p>仕 下段から中段を攻め、更に諸手左上段に対して攻め進む所作は適切であるか。</p> <p>仕 右鑓で小さくすり上げ、一拍子で正しく打太刀の右小手を打っているか。</p> <p>仕 諸手左上段で残心を示した後、右足から刀を抜き合わせた位置にもどっているか。</p>

出典:全日本剣道連盟「日本剣道形解説書」より